

後鳥羽天皇御火葬塚案内、村上家訪問

後鳥羽天皇御火葬塚守部：48代目当主、村上助九郎氏による

村上家での講話 & 御火葬塚案内



村上助九郎氏による後鳥羽天皇御火葬塚案内風景



村上家での講話の様子

むらかみけ
村上家
村上家は其の由緒書によると元祖は村上源氏流村上氏の末裔であって保元の乱(1156年)から源平戦を中心とした時代に隠岐へ移り住んだと伝えられています。承久三年(1221年)後鳥羽上皇の隠岐御遷幸の際に忠誠を尽くし上皇が崩御されてからも累代忠勤として祠殿の改築、祭事、修繕、掃除など怠ることがありませんでした。明治7年4月に正式に後鳥羽天皇御火葬塚と公称されて**宮内庁御陵部管理のもと代々の**
すけくろう もりべ
村上助九郎が御陵守部職を奉じています。邸内には上皇の御霊を奉祠した高間と称す部屋があり明治6年の御神霊幸遷の際はその御霊が御休憩されており、また、明治40年、大正6年それぞれの皇太子殿下(後の大正天皇、昭和天皇)の御休憩所にもなりました。



御火葬塚で記念撮影



村上家門前

著名な先生方による句会・歌会・講話

観光協会で句会・歌会をサポートします



宇多喜代子先生・黒田杏子先生・石寒太先生による俳句談義の様子またあわせてツアー吟行句の表彰の様子



句会・歌会の様子



「後鳥羽んさん」シンポジウム様子：ゲスト尾崎左永子先生



句会・歌会の様子